



ますます行きづまる 高速道路新料金と国家財政



「茶菓の接待マナー」



「名刺交換のマナー」

◆4/7 長野地区本部主催
14年間継続し開催している新入社員研修

CONTENTS

巻頭	1
新春経済講演レポート(3月号つづき)	2
不況よし!への挑戦「経営の神様に学んだこと」	
長野地区本部事業報告	5
写真で綴る関連事業・スケジュール	5
PETIT情報・編集後記	6

国土交通省が、4月発表した高速道路の新料金制度、料金の上限は軽自動車1,000円、普通車2,000円、中・大型車5,000円等としました。現行の休日1,000円、他の割引制度は廃止という、利用勝手が悪くなり実質負担増となる内容となっています。早速政権与党の民社党内でも異議が百出し、混沌としています。

利用者にとって、参議院選を意識しての党利党略でコロコロかわる料金制度には迷惑千万です。

協同組合ハイコープの経済事業として実施しているETC別納割引料金精算事業にあっても困ったものです。今後の予測ですが、社会実験と称しての無料化37路線、50区間はこの6月から実施されるものと思います。新料金体系、他の割引制度については民主党内で見直し最終決着となると思いますが、今秋～来春以降実施とだいたいぶズレ込むのではといわれています。

さらにその先の見透しですが、昨年組合報「ヒューマンハーバー9月号、11月号」で「新政権に期待すること、未来展望・新政権と高速道路の無料化、勇気ある政策転換を!、高速道路無料化の代案、組合の高速道路ETCカード利用で団結を」と題して特集し予測しておきましたので参考にして下さい。

いずれにしろこのような軽率な党利党略で人気取りバラ撒き政策をつづけていると、債券バブルが弾け国家破綻の危機に陥る事態となります。この場合、高速道路料金は無料化などと悠長なことをいってはられません。逆に大幅値上